

5 近海一本釣漁業試験

1. 期間 自1962年2月21日 至3月2日 10日間
調査海域 赤尾崎及魚釣島近海(別紙図面の通り)

2. 使用船及乗組員

(イ) 調査船(15231t 400HP)

(ロ) 中村船長外 15名

水産高校実習生 6名

研修生 1名

調査員 漁撈室長 城田得位 漁撈調査員 上地清吉 漁撈調査員 奥平盛光 3名

3. 行動の概要

1962年

- 2月21日 12h-20h 那覇南三重城早登島
14h-17h 渡嘉敷島近海、渡嘉敷で丸子用石を採集し、17h-17h 同船放錨、漁場に向う。
- 22日 12h-30h 赤尾崎に到着、同島周辺を航走し曳網釣を試みたが惣田鰻小2尾を釣獲したにすぎなかった。
13h-30h から同島の3-4 里離れた水深165m-210mの北東側、北端、西側を5回に亘り10h-55h 北約位調査を実施したが、成績は芳しくなかった。其の後は魚種による魚場探索を同島から魚釣島に亘る200m 線付近に沿って航走しながら実施す。
漁獲物は大口イシナヒキ2、ヒメダイ6、共に中小魚で外に雑12(小型)であった。
- 23日 魚釣島東方18里(25°-43'N, 125°-51'E)の地点水深240mで第一回の調査を行ったが漁獲なし。漁場を西に移動して南小島東方5里(25°-44'E, 125°-59'E)附近の水深220m-265mの漁場で1回の調査をなす。
水深240m位の場所での漁獲物は中魚のハマダイ、ウチムル、水深1120m-165m位の場所では中小魚のヒメダイ、アオダイ等合計152尾を釣獲した。夜間は南小島近くで仮泊す。
魚体の鮮度試験のため「ポリエチレン」袋詰にして水試
- 24日 南小島東方8里(25°-45'N, 125°-42'E)を中心とした水深200m-300mの漁場で前後15回に亘り釣位調査をした所、優秀な漁場であることを確認す。即ち本日の釣獲量は本調査期間中では最高を示し13尾であった。魚種も優秀魚が多く、ハマダイ大5尾6尾、インコ(ヒラマチ)大2尾、マダイ3、アオダイ2、雑1であった。
鮮度試験のため一部は「ポリエチレン」袋詰として水試す。夜間は前日同様南小島近くで仮泊す。
- 25日 前日の漁場で釣位調査実施
漁獲量は263尾で、ハマダイ大20尾、ウチムル2、ヒラマチ大4尾、メバル1、雑5であった。